

平成28年度 前期選抜の選抜・評価方法（予定）

学校番号 6

千葉県立千葉工業高等学校 全日制の課程 電子機械科・電気科・情報技術科
工業化学科・理数工学科

1 期待する生徒像
電子機械科・電気科・情報技術科・工業化学科

本校の教育方針を理解し、将来工業技術者として活躍する意欲と能力のある生徒で、本校又は各学科を志望する動機及び目的が適切な者 又は、スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、生徒会活動等で実績や素質を有し、本校入学後も意欲的に活動する意志のある者

理数工学科

本校の教育方針を理解し、将来工業技術者として活躍する意欲と能力のある生徒で、本校を志望する動機及び目的が適切な者 本校入学後、理工系大学等への進学を目指し、工学の基礎とそれを支える科学技術を学び、意欲的に学習に取り組む意志のある者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の得点を資料とする。
(2) 調査書	全教科の評定、記載事項を資料とする。
(3) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に受検者が選択する。 ア 口頭による自己PR 中学校で取り組んできたことや、本校を志望する理由、高校で意欲的に取り組みたいことなどを3分間にまとめて口頭で発表する。作品・賞状等活動歴を示すものは持参可能。ただし、実演や演奏は不可。メモなどを見ないでPRするのが望ましい。 イ 実技による自己PR 入学後、必ず加入し、3年間活動できる部活動*を選ぶものとする。それぞれの部活動に関する基本的な実技を行う。 ※部活動 男子のみ；バレーボール・野球・サッカー・ラグビー 男子・女子；柔道・陸上・体操・吹奏楽 ※ 高校から始める部活動でも可 各自己表現の評価を資料とする。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
各教科の得点	① 各教科の得点、合計を500点満点で評価する。 ② 各教科の得点のうち15点以下がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 ア～キの項目について、200点満点で評価する。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	全教科の評定の合計値を算式1により評価する。
イ 総合的な学習の時間の記録	記載された内容について評価する。
ウ 出欠の記録	出欠の記録を評価する。
エ 行動の記録（第3学年）	行動の記録を評価する。
オ 特別活動の記録	学級活動、生徒会活動、学校行事における実績について評価する。
カ 部活動の記録・特記事項	部活動、その他における実績について評価する。
キ 総合所見	記載された内容について評価する。

- (3) 自己表現 (ア)～(オ)の項目について、A、B、C、D、Eの5段階、150点満点で評価する。評価がEの者は審議の対象とする。

ア 口頭による自己PR

評価項目	評価基準
(ア) 内容	中学校で取り組んだこと、本校を志願する理由や、取り組みたいことなどの内容であるか。
(イ) 表現力	内容を明確に伝えているか。
(ウ) 意欲	意欲をもって取り組む姿勢が見られるか。
(エ) 話し方	明瞭かつ正しい言葉遣いで話しているか。
(オ) 態度	身だしなみや基本的作法・礼儀ができているか。

イ 実技による自己PR

評価項目	評価基準
(ア) 基礎能力	基礎的な能力を身につけているか。
(イ) 専門技術	専門的な技術を身につけているか。
(ウ) 意志・意欲	入学後その部活動で活動する意志があり、意欲をもって取り組む姿勢が見られるか。
(エ) 将来性	入学後の活躍が期待できるか。
(オ) 態度	身だしなみや基本的作法・礼儀ができているか。

4 選抜方法

(1) 選抜の手順

学力検査、調査書、自己表現の評価の合計点で、順位をつけたとき、予定人員の80%以内の者をA組とし、入学許可候補者内定者とする。
A組に属さない者をB組とし、学力検査得点、調査書、自己表現の結果を資料とし、総合的に判定し選抜する。

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には資料に加え、不利益な取り扱いにならないようにする。
イ 過年度卒業者は、第1日の検査終了後、個人面接を行う。